

| | | | | | | | |
|---------------|--|--------|----------------|--|-----------|------|-----|
| 授業科目名 <英訳> | 京都学のための科学 Science for Kyoto Studies | | 担当者所属 職名・氏名 | 学術情報メディアセンター 教授 小山田 耕二 学際融合教育研究推進センター 特定講師 久木元 伸如 学術情報メディアセンター 特定准教授 江原 康生 | | | |
| 群 | キャリア形成科目群 | 分野(分類) | C O C O L O 域 | | 使用言語 | 日本語 | |
| 旧群 | | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義 |
| 開講年度・ 開講期 | 2016・前期 | 曜時限 | 木5 | 配当学年 | 主として1・2回生 | 対象学生 | 全学向 |

【授業の概要・目的】

本授業では、社会調査・認知構造の可視化を通して、京都のかかえる課題を明らかにして、その課題を解決する方法をデザインする。デザインされた解決策をグローバルな視点も含めた形で評価し、その評価結果を反映させた解決策を当該地域関係者に提示して、その有効性について評価する。具体的には、今年6月に策定された「京都ビジョン2040」の項目をあるべき姿として、現状とのギャップを明らかにし、そこで認識された課題に対して解決策をデザインし、その有効性を検討させる。

本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」(京都学教育プログラム)における「まなびよし」として開講されるものである。

【到達目標】

この科目を履修し、学修目的を達成した結果、社会調査・認知構造の可視化を用いて、社会のもつ課題の解決策をデザインできるようになる。解決策のデザインとして、科学的方法を代表する仮説検証法を活用できるようになる。

また、社会調査に必要な基本的素養を身につけ仮説検証で必要となるデータとしては、各種オープンデータ、そして必要な場合には、学生自ら取得したデータを利用できるようになる。

【授業計画と内容】

以下のような課題について授業を実施する。(各回1-3コマ)

1. 京都学「京都ビジョン」の理解。グループ討議による問題意識の洗い出しと共有。
2. 実証研究の進め方と科学論文の構成(IMRAD)、社会調査の方法の学習。
3. テーマを具体化するための地域関係者による講義・討論。(25年度調査で複数選出)
4. 情報収集(地域関係者による講義、討論・学术论文の検索と評価)
5. 情報整理(アンケート調査の実施：学生、自治体、地域住民、観光客など対象)
6. 情報分析・表現(Excelを使った情報分析、Wordを使った論文形式レポート作成、ピアレビュー、PowerPointによる発表)
7. 最終発表(日本語による口頭発表、表彰)

【履修要件】

インターネット、電子メール、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトについて利用経験がある、もしくは授業期間内に自習できること。

【成績評価の方法・観点及び達成度】

別途ホームページで指示する執筆要領に従って執筆された研究成果レポート(60%)とグループディスカッションにおける積極性等(40%)を考慮して成績評価を行なう。

京都学のための科学(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

『研究ベース学習』(コロナ社) ISBN:139784339077933

[授業外学習(予習・復習)等]

学生個人が関心をもつ社会的課題を授業前に調査し、授業中には、それらをクラスメンバーと共有しておく。その時にうけるフィードバックを受けて、授業後に追加的調査を行う。

[その他(オフィスアワー等)]